

(年間内部評価) 2月

【2021年度:No.1】

Ⅲ 2021年度教育活動の重点目標		コメント
1. 学力の充実・向上		
<p>(1) Google Classroomやフォームを利用した積極的な家庭学習指導を促進し、またGoogle MeetやZoomによるオンライン授業も活用し、より効率的かつ効果的な授業の実施を進めていきます。そのために、教員間の授業見学や教科内を中心とした相互交流を活発化させていきます。</p> <p>(2) 思考力を重視する学力観に基づき、定期考査とレポートなどの課題提出のバランスを追求し、適切な定期考査のあり方を提案します。</p> <p>(3) 定期考査の作問力を向上させるために、教科内での検討機会を設けて定期考査を通じての学力向上を目指すとともに、考査の厳正なる実施のために、より現状に適した定期考査のあり方を提案します。</p> <p>(4) 全教室に設置が終了した、ワイード（短焦点プロジェクター付きホワイトボード）での効果的な授業内容の創意工夫に努めるとともに、オンライン授業や反転授業と組み合わせた新しい学習環境の構築に努めます。</p>	<p>4</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>4</p>	<p>教週間単位でのオンライン授業期間においてもそれぞれ成果を上げることができた。また自宅待機者へのサポートとして、iPad/Meet/Zoomを活用して授業のハイブリッド展開を進めることができた。</p> <p>中学校においては観点別評価と定期考査問題作成を運動させることがまだできていない。また各自が単元別に学習到達度を図るルーブリック作成も急務である。課題提出に際しても、観点にどう反映させるか細部にわたって検討が必要である。</p> <p>定期考査を1コマ原則50分、または一部特定科目のみ90分とし、時間内で学習成果を達成できる作問を検討した。その結果、時間割作成上休み時間のずれがなくなるなど全学年を通しての学習（受験）環境を整備することができた。</p> <p>定期考査を1コマ原則50分、または一部特定科目のみ90分とし、時間内で学習成果を達成できる作問を検討した。その結果、時間割作成上休み時間のずれがなくなるなど全学年を通しての学習（受験）環境を整備することができた。</p>
2. 学習の充実および多様な進路実現・能力開発にむけてのコース・カリキュラム選択		
<p>(1) 2021年度入試から開始された大学入共通テストにおいて5教科7科目受験の国立希望者140名を目指します。</p> <p>(2) 本校の中間層が千葉大学で合格できるよう共通テストで平均75%の得点率を目指します。そのため、マークカードの利用や共通テスト対策講座を実施し、生徒にフィードバックします。</p> <p>(3) 昨年に引き続きコロナ禍に影響を受けることのないよう、「学習を止めない」をテーマに、オンライン授業の研究を進め、カリキュラムに遅れが出ないよう授業を進めます。同時にスタディサプリやスクールタクト等を併用し、自学自習が出来る環境を整えます。</p> <p>(4) 英検受験を推進し、生徒の状況について、担任や学年団が把握し、助言できる環境を作ります。また、その他の外部検定試験についての研究を進めます。</p> <p>(5) 高校1、2年生を中心に、キャリア教育を推進し、大学の志望学科などについての探求が進むよう進路行事を検討します。</p> <p>(6) 理系に進学する女子を増やすために、さまざまな方策を検討し、イベントを実施します。</p> <p>(7) オンラインを併用しながら種々の進路行事や面談などを実施し、生徒が自分の希望の進路を見出すうえでの支援を行います。</p> <p>(8) 面談や進路行事を通してカリキュラムやコース選択を提示し進路実現へとつなげます。</p> <p>(9) 昨年度から始まった大学入試における総合型選抜・学校推薦型選抜に対応し、「主体性・多様性・協働性」などを育むとともに、各自のポートフォリオでの記録を促すなど、多様な入試方式への対応を促します。</p> <p>(10) 種々の英語関連講座などを通じて英語4技能の能力を高めるとともに、外国の文化・価値観や国際的な問題を理解して、さまざまな場で活躍できるグローバルな人材育成に努めます。</p>	<p>2</p> <p>2</p> <p>4</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>3</p>	<p>国立希望者が極めて少ない学年。5教科7科目受験者は81名(文系22名、理系59名)と目標に遠く及ばなかった。</p> <p>共通テストの難化に伴いボーダーは学部によってばらつきがあり得点率60～70%程度であるが工学部などは70%弱、理学部では70%強必要。文系68.6%、理系61.6%。理系が苦戦している。</p> <p>臨機応変にオンライン授業を行い、授業進度に遅れが出ることはなかった。出席停止の生徒に対してもハイブリッド型の授業を行い、濃厚接触や無症状の生徒が授業について行けなくなるということがないよう実践出来た。</p> <p>英検対策講座を外部講師を招いて実施したり、英語科教員が2次試験対策として個別面接を行うなど、受験の呼びかけだけでなく、検定の合格を勝ち取る工夫を実践出来た。また、GTECに替えて次年度から中1から高2全員、および高3の希望者を対象にケンブリッジ英検を受験する。設定校を目指すとともに外部検定利用にも使える。</p> <p>夢ナビライブ、理系女子講演会、仕事塾、職場体験など対面では実施出来なかったが、オンラインで実施し、対面に劣らない行事として実施出来た。</p> <p>各大学が企画する様々な女子生徒向けのイベントを紹介したが、ほとんどがオンライン実施ということもあって参加率は低かった。理系女子講演会は内容が非常によいのもっと多くの生徒が参加出来るよう呼びかけに力を入れた。</p> <p>高3を中心に生徒とのオンライン面談、それ以外の学年は保護者面談でオンラインを希望する場合は選択出来るようにするなど、昨年以上に面談のオンライン化が実現した。高2以下の生徒に関しては対面が重要と考え、年3回の面談習慣を中心に時間を取って面談を行った。</p> <p>進路行事自体のオンライン化が多く、対面で行うより生徒の食いつきは悪い。高3を対象に行った対面での大学入試説明会では20大学の入試担当の方に来校していただき充実した内容となった。可能な限り対面での行事を増やしたい。</p> <p>学校推薦型(旧公募)、総合型(旧AO)選抜では延べ70名が挑戦し、過去最高の受験者となった。最難関国立の東大、東工大、一橋大さらには筑波大医学科への合格が出るなど多様な方面での合格を勝ち取った。</p> <p>英検対策講座は盛況だが、TEAP対策を中心とした4技能ブラッシュアップ講座は希望者が少なく開講出来なかった。講座の内容は悪くないのだが、生徒が望んでいる内容を吟味し次年度につなげたい。</p>
3. 生徒活動及び生徒指導の推進		
<p>(1) 学校生活における基本的な新型コロナウイルス感染拡大防止対策の行動指針を生徒に示し、感染予防を心がけ行事や部活動に取り組んでいけるよう指導します。</p> <p>(2) 新柏駅や電車、バス乗車時のマナー向上への対策を立案し実行します。</p> <p>(3) 文化祭について、情報部と連携し、オンライン参加型の開催方法を検討します。</p> <p>(4) 制服の着こなしについて、指導基準を提案し教員間感覚を揃えます。また、制服のジェンダーレス化について議論します。</p> <p>(5) BYOD (Bring Your Own Device) の導入に伴い、スマートフォン等の使用方法について、引き続き生徒と教員が協働してルール作りを進めます。高校各学年と連携し、生徒がその課題をきっかけに、自由と統制、規律、責任等について、不定期でも考える機会を創ります。</p> <p>(6) 地域に貢献する活動を立案し実施する機会を設けます。</p>	<p>3</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>3</p> <p>3</p> <p>4</p>	<p>関係各所の協力のもと、行事や部活動での感染防止対策を行った。部活の更衣場が密にならないよう視聴覚室および技術室を準備した。</p> <p>11/5(金)～11(木)新柏マナー指導を行った。状況の確認は</p> <p>情報部・デジタル班と協働してオンライン参加型で実施できた。</p> <p>ダウンコートでの着用、高校生のネクタイなど、ルールが守られない部分がある。生徒部から担任団へ、指導基準についての情報共有が不足していた。中学生徒会とは制服のジェンダーレス化について議論した。</p> <p>9月に新ルールでスタートをしたが、不正使用に対して個々の対応に終始し、生徒会の自浄作用をはたかせるには至らなかった。2月に生徒会と改善策を話し合った。</p> <p>9月高校サッカー部でサッカー教室を企画するもコロナ禍で断念。12月少年野球教室実施。3月中学野球部グラウンド解放を企画するもコロナ禍で5月に延期予定。</p>
4. 健康な学校生活の推進		
<p>(1) 新型コロナ感染拡大防止のために、学校生活の様々な場面を想定し行政のガイドラインに準じて対策を講じます。</p> <p>(2) 生徒および教職員の健康診断結果に基づき、すみやかに検査や治療の勧告をします。インフルエンザ、麻疹などの予防接種を勧奨します。養護教諭による保健指導、AED・心肺蘇生法・エビパンの講習会を引き続き実施します。</p> <p>(3) 「食育」を継続して推進します。カフェテリアの業者と協力メニューが生徒の健康と安全に配慮したものに取替えているか確認していきます。また、学校内で販売している飲料に關しては同様に確認していきます。</p> <p>(4) 相談室「クオレ」において生徒の学校生活への適応や、教員・保護者の対応を支援します。引き続き教員向けの研修会や事例検討会を実施します。</p> <p>(5) 中学生の「心の教育」を推進し、道徳やワールドデーなどの活動を通して、豊かな心を育てる学校を目指します。</p>	<p>4</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>4</p>	<p>感染症の状況に応じて各所と連携を図り、文部科学省・千葉県・柏市等のガイドラインを参考に、情報発信を行い必要な対策を講じた。</p> <p>計画的に健康診断を実施し、治療や検査の指導を行なった。多くの教職員が接種できるよう、複数日を設けてインフルエンザ予防接種を実施した。また、感染症対策を講じながら各種講習会を実施した。</p> <p>カフェテリアと綿密に連絡を取り、感染症対策やメニューについて協力してきた。校内自動販売機の飲料について定期的に内容を確認し、必要に応じて業者に提言をした。</p> <p>今年度から教員対象の勉強会を4回実施した。多様な生徒の状況を理解する良い機会となった。事例検討会では「不登校」をテーマに意見交換を行った。「クオレ」では生徒、保護者、教職員に対して適切な支援を続けた。「保健だより」を定期発行して、生徒や保護者へ情報を提供した。</p> <p>中学生の「心の教育」を推進した。学年ごとにWDと道徳の時間に福祉活動を実施し、「豊かな心」を育てる指導に努めた。</p>
5. ICTを活用した教育の推進及び校務のDX化		
<p>(1) Google Classroom, Google フォーム, Google ドライブを始めとしたGoogle Workspaceの活用を進めます。また、これらの活用により、校務のDX化を推進します。</p> <p>(2) ワイード、Wi-Fiを活用した教育を推進します。中学生、高校1年生に関しては昨年度より導入しているスクールタクトを活用することで協働学習を深化させます。</p> <p>(3) ICTを主体的に活用できる生徒を育てます。授業時以外でもICT機器を適切に利用することを目指します。</p>	<p>4</p> <p>3</p> <p>3</p>	<p>これまで多くの紙媒体を利用してきたが、GoogleWorkspaceの活用によってPDFなどのデータを配信する形となった。校務においても各種会議などでは議事録等をGoogleドライブ上で共有することで紙資料に利用を大きく減らすことができた。</p> <p>各教員がiPadの画面をワイードで投影するなどICT機器の利用をより進めることができた。一方で、ICT機器の効果的な活用による協働学習の深化にはまだまだ改善の余地があるため次年度も引き続きこの課題に取り組んでいきたい。</p> <p>高校生においては、校内でのスマートフォンなど情報端末の利用が解禁された。その状況の中で効果的にICT機器を使いこなす生徒が増える一方、スマートフォンに耽ることでできない生徒も一定数存在する。この部分は次年度の課題である。</p>
6. 読書習慣の形成と視聴覚教育の推進		
<p>(1) 生徒がより読書に意識的に取り組むよう、図書室の閲覧環境などの改善をはかるとともに、委員会活動を活性化させ、様々な読書を促す取り組みを実施します。</p> <p>(2) ICTを活用して視聴覚・情報機器を活用しやすくし、ワイードやスクールタクトなどの活用など、より効果的な授業環境の整備を図ります。</p>	<p>3</p> <p>4</p>	<p>今年度もビブリオバトルをオンラインで実施。各教室で落ち着いた状況の中、多くの生徒が参加することができた。</p> <p>授業時においてワイードを活用することで視聴覚教材の活用が進んだ。また、スクールタクトの利用も進み生徒の思考の過程を教員がより知ることができるようになった。</p>
7. 「家庭と学校」「地域と学校」の連携及び安全の推進		
<p>(1) 防災、危機管理の体制を再検討し、コロナ禍に影響を受けることのない災害時の避難連絡体制を構築します。また、日常から防災訓練を定着させ、より有効な防災備品の追加、備品管理場所の確保などを行い、非常時に円滑に行動できるように全教職員、生徒に周知徹底を図ります。</p> <p>(2) PTA、同窓会との連携を図り、諸活動の活性化を促します。</p> <p>(3) 式典は厳粛で、生徒保護者に満足されるように、行事は効率的かつ一体感をもって安全に運営します。</p>	<p>4</p> <p>3</p> <p>4</p>	<p>3密を避けながら、迅速に避難訓練を行うことができた。また、防災備蓄品の充実等、計画的に行っている。</p> <p>連携はとれたが、PTA諸活動がコロナ禍で思うように行うことができなかった。保護者懇親会や増債債への参加などができず、運営に苦慮した。</p> <p>教室内へのライブ配信や全校放送などによる式典・集会を実施。コロナ禍の状況下だったが、試行錯誤しながら運営できた。また、高校生徒会役員による司会進行を行い、生徒会の活動の場を増やすことができた。</p>
8. 入試広報活動の充実・募集形態の研究		
<p>(1) 学校説明会においてアドミッションポリシーを明確に示し、入試形態を簡潔に説明していきます。また、対面の説明会とオンライン説明会の併用など様々な説明会や相談会を企画し実施していきます。</p> <p>(2) 学校概要や教育の特色を簡潔に盛り込んだ学校案内とそのデジタル版を作成し相談会等で活用します。</p> <p>(3) 本校の教育の3本柱である「探究活動」「サイエンス教育」「グローバル教育」の説明は勿論のこと「ICT教育」の活動報告を外部へわかりやすくPRしていきます。</p> <p>(4) ホームページやSNSを活用して、本校の教育の特色や中学・高校入試の情報などを発信し、受験生獲得に向けた広報活動に生かしていきます。</p>	<p>3</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>4</p>	<p>学校説明会では、アドミッションポリシーを明確にし、入試形態を簡潔に説明できた。また、中学オンライン説明会の実施、説明会動画の作成など幅広い広報活動を行った。</p> <p>学校案内は5月の説明会に間に合うよう作成した。また、情報部と協力しHPのリニューアルを行い、デジタルパンフレットも作成しHPとの融合も図られた。</p> <p>学校説明会において、教育の3本柱(CSC・グローバル・サイエンス)の他、本校のICT教育について説明を行い、本校の教育の特色をわかりやすくアピールできた。</p> <p>情報部と協力し学校HPでの教育内容の紹介やTwitterを活用した情報の配信などを行い、広報活動に役立てた。</p>
9. 事務室によるハード・ソフト両面における学校運営支援体制の強化 千葉県内における私立進学校としての地位確立、強化につながる本校の取組に事務の観点で貢献します。		
<p>(1) 理事会による校舎・施設等の将来計画を注視しながら、一部老朽化の進む施設・設備について、必要に応じて迅速な修繕・改修を施すことで、教育環境の維持・変化に継続的に努めます。なお、状況を十分に把握し、法人関係部課とも協議した上で、修繕・改修時期に関する検討を行います。</p> <p>(2) 学主任会・教務主任会・グラウンドデザイン検討委員会との連携を密にすることで、各会から上がってくる事務関連提案や要望に関する検討を迅速に行います。</p> <p>(3) 教室内ICT機器の普及や会議室等の教員エリアにおけるWi-Fi環境などについて校内外関係者とも協働して改善・向上に努めます。</p> <p>(4) 4年目となるスーパーサイエンスハイスクール支援事業に付随する諸事務を、研究部と連携して正確かつ確実に進めます。</p> <p>(5) 生徒の探究活動や本校のカリキュラム改訂における芝浦工業大学との連携について事務室が結節点となり、取組の促進や新プログラム立ち上げなどに寄与します。</p> <p>(6) 法人担当部署とも連携のうえ、新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた安心安全な環境構築に注力しつつ、校内での感染者発生時には速やかに行政とも連携を行えるようにします。</p>	<p>3</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>4</p>	<p>校舎の将来計画に関して、法人の実施する将来計画に関する検討会議の準備等を担当。現有施設にトラブルが発生した際は関連企業と連携しながら迅速な対応を行った。老朽化の進む施設設備についてはランドデザイン検討委員会の決定を受け、法人と調整しながら回収等を行った。</p> <p>次年度の高等学校における新課程への移行に際し、千葉県担当部署と折衝しながら本校のカリキュラムについて最終的な取りまとめを行い、承認を得るに至るまで、校内会議と連携しながら新規の取組を行った(上記(1)も参照)。</p> <p>電子部品枯渇問題など、当初想定されなかった状況の中、校内無線LANの拡張については各所の協力を受け無事に実施が完了した。併せて当該事業については別途、新規の補助金申請も行うよう内定を得ている。</p> <p>コロナ禍による当初計画の変更などが多く発生したが、研究部と連携し、運営指導委員会や生徒発表会といった行事を含め滞りない計画実施に貢献することができた。</p> <p>研究部と連携し、芝浦工大入試センター長と意見交換を実施。SSCⅢとして行っている現行の先取り授業について新たな取り組みを芝浦工大建築学部と検討する場を設定した。</p> <p>国や自治体が発信するコロナに関する取組をキャッチアップし、校内行事に反映することができた。また法人の実施した職域接種においては申込のインターフェイスなどについて法人担当者と調整するなど、滞りない実施に貢献した。併せて校内で発生する感染者等に関する対応について保健所や千葉県と連携しながら対応を行った。</p>
10. 生徒の理解が深まる授業・研修活動の充実		
<p>(1) 新型コロナウイルス感染防止に配慮したうえで効果的な授業方法を検討し、授業力の向上を推進します。また緊急の際には、即時オンライン授業に対応できるよう、昨年度の成果・課題を踏まえて、準備をすすめます。</p> <p>(2) 高大接続改革や新たな学習カリキュラムの開始を踏まえ、今後求められる学力観の理解を深めます。それらを育成するための中高6年間に渡る系統的な学習方法・評価方法の検討をすすめます。</p> <p>(3) ICT機器などを活用した授業開発への試みを推進するとともに、教員相互間の共有にもつとめます。</p> <p>(4) 「SK学習ルーブリック」を使って評価する場面やその方法を再検討し、個々の生徒が各自の学習をはじめとする諸活動において、現状や課題を分析できる環境づくりにつとめます。</p>	<p>4</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>3</p>	<p>各教科・科目で検討を重ね、距離を保って直接向かい合わせにならないなど感染対策に気を配りながらも効果的な授業を模索した。オンライン授業においても、それぞれが有効な授業を意見交換することにより、オンラインに不慣れな教員も、さまざまな方法を学んで提供することができた。</p> <p>次年度から本格導入する観点別評価に基づく評価方法の検討を重ねるなかで、各教科で生徒の理解に即した評価方法を作成した。また次年度から導入する高校の新教育課程表は、本校が育成したい学力を検討したうえで作成した。実施していくなかで教科・教員全体の研修を重ね、評価方法の精度を高めていく方針である。</p> <p>今年度から高校1年生にも全員デバイスの購入をお願いし、従来の中学校同様に授業などの場で有効に活用されている。高校2・3年も各自のデバイスを用いる形で運用している。Google ClassroomをはじめとするGoogle Workspace for Educationなどを利用した教材などの提供は教員間に定着するとともに、情報部による学習会でのソフト・アプリなどの紹介によって、これらを授業に用いることで生徒の理解の向上につとめている。教員間の技術などの差異も、相互に教えあうことで解消がはかられている。</p> <p>「SK学習ルーブリック」の効果的な使用法の再検討までには至らなかった。しかし、各教科や場面において、生徒に現状分析や課題認識を深めるために、独自の評価表などを作成・活用することが増加している。またICT教材などの活用により教員が生徒の学習状況・課題を把握しやすくなり、適切なアドバイス・指導を行う手助けとなっている。</p>
11. スーパーサイエンスハイスクールとしての実践の充実		
<p>(1) 『Creative, Studious and Communicative(CSC)～創造力を発揮し、粘り強く取り組み、その成果を積極的に発信する～』を掲げ、将来社会で活躍する科学技術人材を効果的に育成する研究開発に取り組む。</p> <p>(2) GS・SS探究授業、総合的な学習の時間、通常授業、その他あらゆる教育の場において、広く教育の探究化を推進し、中高一貫カリキュラムの開発、改善に取り組む。</p> <p>(3) CSCルーブリックに基づいた評価の研究に取り組む。また、探究力育成を主眼とする教員研修プログラムの開発と改善に取り組む。</p> <p>(4) 芝浦工業大学との高大連携・接続プログラムの開発と改善に取り組む。また、外部諸機関と連携して、特別講座等を実施します。</p> <p>(5) 昨年度休止のSSHサイエンスツアー、留学生との交流に代えて、千葉大学国際発表会への参加、英語ポスタープレゼンテーションやオンライン交流等のグローバル化教育を取り入れ、グローバル人材の育成を図ります。</p> <p>(6) 実験・研究の実施に当たっては、従来からのゴーグル着用、安全実施報告書の事前提出に加えて、新型コロナウイルス感染拡大防止対策としてのフェイスマスクや防護カーテン等の防護措置を必要に応じてとり、実施します。</p>	<p>4</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>4</p>	<p>CSCの理念の下、通常授業・総探・部活動・特別授業等、様々な場を通じて、生徒の能力を引き出す人材育成を行い、外部コンテストで優秀な成果を収めた生徒のみならず、多くの生徒が探究活動を通じて学びを得る機会を提供した。</p> <p>GS/SS授業に成果が教員が増え、年々プログラムの充実を図ることができた。総探や通常授業、中学での各場面においても探究の理念を取り入れた実践が行われ、生徒の学びの姿が見られた。</p> <p>評価については、各場面でルーブリックの活用、その他の方法で実施した。探究授業Week、授業検討会を実施し、より良い授業に向けて授業実践の研究を話し合う土壌が生まれてきた。次年度はこれをさらに広げ、より良い実践の共有、開発を進めたい。</p> <p>感染状況により外部との連携が難しい中、特別講座、見学会を実施できた。芝浦工大との接続、連携は、研究室論文発表会に参加できたが、これからプログラム開発を進める。</p> <p>千葉大学発表会が開催されず、SSH研修も実施できなかったが、このような中でもベトナムPPT高校とスマートシティをテーマとしてオンライン共同研究を実施できた。</p> <p>授業での安全チェックシートの提出、安全に配慮した実験実習を実施できた。引き続き安全対策には留意して実施する。</p>

※4段階：【4】十分に達成 【3】ほぼ達成 【2】やや未達成 【1】未達成 評価理由コメントをお願いします。